

日本史特殊講義1C- I

科目ナンバリング JPH-201
選択必修 2単位

相澤 央

1. 授業の概要(ねらい)

日本古代史の研究において、木簡・墨書土器・漆紙文書などの出土文字資料は、今や欠かせない重要な資料である。本講義では、これら出土文字資料を活用して古代の政治社会史を論じる。これまでの文献史料に基づく研究成果を踏まえた上で、出土文字資料を、その資料としての特徴に注意しながら用いることによって、新たにどのようなことが明らかになったのか。具体的に出土文字資料の分析を解説しながら授業を進める。春期は古代の都城と地域における政治・社会の実態について論じる。

2. 授業の到達目標

- ①古代の都城と地域における政治や社会の実態について理解する。
- ②授業の中で特に興味をもったテーマについて、参考文献を読むなどして理解を深め、自分なりの考えをもち、レポートにまとめる。

3. 成績評価の方法および基準

各回の授業内容についてのコメントシート(30%)と、春期授業終了時に提出する4,000字程度のレポート(70%)で評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

使用しない。毎回配布するレジユメにより授業する。

参考文献

木簡学会 『木簡から古代がみえる』 岩波新書
市大樹 『飛鳥の木簡』 中公新書

5. 準備学修の内容

授業内容の復習をしっかり行い、関心をもって授業に臨むこと。授業で紹介した参考文献などを読み、自分なりの考えをもてるようにすること。

6. その他履修上の注意事項

毎回、授業内容についてのコメントシート(感想・質問)を提出してもらう。なお、7の授業内容は進行状況により変更することがある。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業の内容、進め方などについてのガイダンス
- 【第2回】 出土文字資料概論
- 【第3回】 飛鳥・藤原の都と木簡
- 【第4回】 平城京の役所と官人
- 【第5回】 長屋王家のしくみと生活
- 【第6回】 長岡京の造営と役所
- 【第7回】 木簡からみた古代の生活・文化
- 【第8回】 律令税制と荷札木簡
- 【第9回】 荷札木簡にみる地域—隠岐国と安房国—
- 【第10回】 出土文字資料からみた古代の交通
- 【第11回】 北陸地方の木簡—越後国と加賀国—
- 【第12回】 城柵出土の木簡—秋田城と多賀城—
- 【第13回】 東国の役所と支配
- 【第14回】 相模国の木簡
- 【第15回】 墨書土器の祭祀と古代人の死生観